

# ザンビア大学日本語公開講座

在ザンビア日本国大使館

日本は、1980年代半ばからODAによりザンビア大学の獣医学部施設の建設に協力して以来、同大学に対し各種支援を行っています。JICA専門家及びJOCVのザンビア大学への派遣や、国費留学生の輩出等で大学の学術レベルの向上にも貢献してきました。北海道大学は、1991年から、ザンビア大学との交流を通じてザンビアの人材育成に貢献しており、2008年にはザンビア大学の獣医学部に人獣共通感染症リサーチセンターを設置するとともに、2012年にはアフリカ初となる北海道大学の海外事務所「北大ルサカオフィス」を開設しています。

ザンビア大学と日本（北海道大学）との長期にわたる交流の中、北海道大学が、2013年に日本語公開講座を開設し、京都大学で博士号（文化人類学）を取得したンガランデ氏とザンビア駐在日本人留学生等が数名ボランティア講師として携わっています。このような大学が関与する一般向けの公開講座は南部アフリカにおいては、初めての取組です。初級・会話コースが週に1度、10週間のカリキュラムで行われています。

2016年11月、国際交流基金から贈呈された、同講座で使用する日本語教材52冊を駐ザンビア日本国大使からザンビア大学副学長に引き渡しました。

ザンビアからの国費留学生は、理系の学生が多く、訪日する前に少しでも日本語や文化を習得したいと考え、参加する学生が多いです。また、講座外の活動として、カルチュラルデー、日本語スピーチコンテスト、日本語クラブを開催しています。

また、2019年3月には、長年切望されたJOCVが同講座に日本語講師として派遣されました。

同講座は、2013年に12名の受講生とともにスタートを切りましたが、2022年の講座には、対面式及びオンラインのコースに合わせて約90名の受講生が参加し、当地における日本語学習熱の高まりとともに年々その規模を拡大させています。